

(国語科)

生きてはたらく言語力の育成をめざして
～コミュニケーション力を育てる国語科指導法の工夫～

大阪市立神津小学校 研究推進委員会

1. 研究主題設定の理由

本校は、「強く・正しく・朗らかに」という校訓のもと、「豊かな心をはぐくみ、たくましく生きる子どもを育成する」という学校教育目標を掲げ、一人一人の児童が明るく生き生きと可能性をのばしていけるように教育活動を進めている。

日々の生活の中で、児童が自分の気持ちや考えをうまく伝えることのできる力を育てるため、2年間、国語科の研究に取り組んできている。1年目はインプット型の「聞く力」「読む力」を重点的に、2年目はアウトプット型の「書く力」「話す力」を重点的に伸ばすことができるよう、各学年が研究授業等を通して指導法の工夫を重ねてきた。その結果、語彙力が上がり、自分の気持ちや考えを、意欲的に表現しようとする姿が見られるようになった。大阪市小学校学力経年調査の結果においても、「言葉の特徴や使い方等に関する事項」や「書くこと」の領域が向上してきた。昨年度の研究のまとめでは、話し合い活動の進め方や話型を提示し、児童に「意見を交流する目的」や「考える視点」を明確にすることで活発に話し合えるように工夫する必要があることや、友達の考えと比較し、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる発問を工夫することが必要である、という課題が明らかになった。

そこで、今年度も引き続き国語科を研究教科とし、「生きてはたらく言語能力の育成をめざして～コミュニケーション力を育てる国語科指導法の工夫～」と研究主題を設定した。

2. 研究の趣旨

「交流」を軸に、教材文に書かれていることを根拠として、児童の考えを広めたり、深めたりすることで「コミュニケーション力」を育むための指導法の工夫を探っていきたい。相手の話を受けて返ししながら、話し合いができるよう対話活動を取り入れ、身に付けた力を日常生活に生かし、より良い人間関係を築いていける児童の育成につなげていきたいと考える。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 交流の工夫

- 対話を通して自分の考えを広げたり深めたりできる交流になるよう工夫する。
- 交流をするにあたって、相手・目的・方法を明らかにして話し合う。

視点② 指導力向上について

- 教材を通して、気付かせたい語句や表現、育みたい力を明確にする。
- 毎時間の課題を設定し、まとめ、振り返りを行うことを意識した授業展開にする。

視点③ 基礎・基本の定着

- 漢字を含め、語句や語彙力を育成する。

- 音読の継続指導と形態を工夫する。
- 読み聞かせ、読書をする時間を設定する。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

基礎基本の定着が交流を進めるための素地となるため、語彙力の向上を目指し、発達段階に応じた取り組みを行った。国語辞典の活用や学習中の教材文に関連した本を集めた並行読書、読書タイムの設定などによって多くの言葉に触れ、言葉への興味・関心を高めるようにした。また、基礎基本の定着において学校全体で共通して音読にも力を入れて取り組んだ。音読を行う際は、文の中のどのような内容に着目しながら読んだり、聞いたりするかを必ず伝えることで、児童が教材文に向き合って意欲的に読み取ろうとする習慣をつけることができた。

児童の学習意欲を高め、基礎基本を定着させるには、指導者が教材文を分析し、着目する点や児童がつまずくと予想されるポイントを抑え、対策を行うことが重要である。児童の初発の感想から児童が解決したいと感じられるめあてを設定したり、ヒントカードによる支援により「分かる」「書ける」につなげたりすることが意欲的な活動の高まりに有効であることを指導案検討会、研究討議会で共有することができた。また、教材文への理解につなげるために、ワークシートの工夫、根拠となる文に線を引く、要約のために省略するところにかっこを入れる等、様々な目的に則した方法も同様に共有することができ、指導力向上につながる研究となった。

もう一つ、学校全体で共通して、行った取り組みがある。毎時間の最後に、学習を振り返る機会を設定したことである。振り返りで、学んだことや次回、挑戦したいことを書く機会があることで、児童には、より主体的に学ぶ姿勢が見られるようになった。また、学んだことを自ら書き表すことで、習得したことを明確にし、自信につながったと考える。

このような児童の基礎基本の定着、指導者の分析・計画力の向上があるからこそ有効な交流ができたと考えている。交流の工夫として、ペア・グループ・全体と解決すべき課題に応じて形態を変えたり、1人学びの時間を確保してペアやグループ交流の後に全体交流したりする等、計画を立てるようにした。また、交流の目的を明確にし、課題解決に向かう話し合いになるようにした。そして、意見と根拠を明確に伝える話型を活用し、学年の実態に応じて友達の意見の良いところや自分の意見と似ているところ、疑問に思ったところを見付けるなど、聞くポイントや対話的な交流にするためのつなぐ言葉を示した。さらに、様々な意見が出るような交流になるよう、発問の工夫をした。これらの工夫によって、児童が自分の考えを伝えることに自信を付け、活発に交流できるようになったと考える。

(2) 今後の課題

- 交流の際、自分の考えを相手にわかりやすく伝えられるようにするために、引き続き語彙を増やしていく活動を取り入れていく。
- 自分の考えを広げるだけでなく深められるように、発問を工夫・精選し、様々な考えを引き出していけるような交流につなげていく。
- 今後も児童が興味・関心をもち、意欲をもって取り組める言語活動を計画し、国語科で学んだことを他教科や学校生活の様々な場面で生かしていけるようにする。